

## 公共バス

私が通う山西大学のある太原市には鉄道がなく、市民は基本的に車や自転車、バイク、タクシー、公共バス等を使って移動しています。中でもバスは、乗り降りするバス停に関わらず一回1～5元程度（日本円で約16円～80円）で利用することができ、市民にとっては欠かすことのできない生活の足となっています。

今回はその公共バスの中を少し覗いてみましょう。

乗車口は前方にあり、乗ったらまず運転手の横にある機械に現金を入れるか、あるいはバスカードをタッチして料金を支払います。次のバス停のアナウンスが流れると、降りたい人はバス後方にある降車口の方に行き、スタンバイします。乗客が少ないときは良いですが、東京の朝の通勤ラッシュ並みに混んでいることもあります。その場合は、バスの前方から後方まで見知らぬ人の間を縫うようにして移動しなければなりません。また、中国のバスには日本のバスにある「次止まります」ボタンがありません。しばしば運転手は「～で降りる人、いる？いない？」と叫びます。そこで大きな声で「いる！」と答えないと、目的のバス停を乗り過ごすこととなります。

今度は乗客の様子を見てみましょう。日本のバスや電車内でも見られますが、スマートフォンでゲームやメッセージのやり取りをしている人がいます。居眠りをしている人もよく見られます。これらは日本と変わらない光景ですね。

電話をしているおじさんがいますが、ものすごい声の大きさと話すので、話の内容は他の乗客に筒抜けです（私はまだリスニング能力があまりないので、残念ながら何を話しているか少ししかわかりませんが…）。また、そこかしこで「今どこ？」「もうすぐ～に着くよ」などといったメッセージをスマートフォンに吹き込んでいる人がいます。日本のメッセージアプリ「LINE」には無い機能ですが、中国で普及しているメッセージアプリ「微信」には、ボイスメッセージ機能があるのです。きっと誰かと待ち合わせをしているのでしょう。

何やらぼりぼり音がするな、と思ってそちらを見ると、一心不乱に何かの種（中国ではひまわりの種などがスナック感覚で食べられています）を食べているお婆さんがいます。種の皮がパラパラこぼれていますが、全然気にしてないようです。

お年寄りに対して席を譲る様子も見られます。「座って座って」「いや、次で降りるから大丈夫」などといった会話が聞こえてきます。また、小さな子供に席を譲る光景も珍しくありません。そこから会話が始まって、見知らぬ人同士にも関わらず会話を弾ませている様子を見たこともあります。

ほかにも、人目を気にせずいちゃつくカップルなど、少し面白い人たちがいっぱいいます。

このように、中国の公共バスの中は日本人からすると少し騒がしく、乱雑な印象を受けるかもしれません。しかし見方を変えると、中国は日本に比べて公共の場における暗黙のルールや他人に対する遠慮が少なく、いつでも気を楽しんでいられるとも言えます。中国のバスに慣れると、日本の電車やバスは少し息苦しく感じるかもしれませんね。



このバス停は大学の最寄りなので乗客は若者がほとんどです。しかし全体的に見ると乗客の年齢層は、日本よりも高いように感じます。それだけ市民に密着しているということの現れなのかもしれません。